PURE/THAI 発
発刊 105 号 2019年 10月 10日 発行　　発行者　寛庵 泰
EXCITING/Thailand News
Relaxation/Place（ くつろぎのいおり ）
286/79 Moo 6 T.Sanpak warn A.Hangdong Chiang Mai ThaiLand 〒 50230 Mob：081-205-0689 e-mail：h2.kanang@gmail.com

再び三度、人生のTime table

またか！あんたも好きだねー！と、ため息をつかれてしまいそうですが、子供の頃から時間表・予定表に追い掛け回されて来て、殆ど計画通りに行かなかった反省を込めながら、人生の残り時間を計画してみようという大胆不敵（無謀）な挑戦にお付き合い頂こうと云うのが本章の主題です。

10年スパン・30年スパンで人生のTime tableを俯瞰してみると、本誌を発刊したのが概ね10年前で、（面白い、つまらない、くだらない、は読者の評価に任せて）外からみた日本と現地情報や、私の思い描く処のあるべき姿の日本と日本人像を語り、綴って来ました。
その10年前は住宅メーカーに仮設資材をレンタルする会社で（『受け皿』という考え方と実践の方法）を勉強させて貰いました。（在職期間14年間）
その又10年前は、前号で紹介した外資系電機メーカーでの販売促進・営業社員・幹部教育を実践する中で、『商品とは何か？』『売り上げ目標の立て方と、達成手法』について大いに勉強させて貰いました。（在職期間15年間）この通算約30年間で『仕事』を身につけたと思います。
それ以前の職歴や経験は、駆け出し小僧・洟垂れ小僧の粋を脱していなかった様に思います。

ですから、30代までは手も足も頭も地に着かない（「未だにそうだろう！」と云われれば、反論に苦慮するものの）浮ついた毎日を過ごしていたように思います。

論語のTime Tableで謂う処の10代で学に志し（人生如何に生きるべきかを学んだ）では、二十歳頃に人生の目的は、『三大視野の拡大』（地理的・知的・人的視野の拡大）にあり。と思い至ったものの、漠然としたイメージで、各々の具体的行動が計画的ではなかった故に、浮ついた毎日を過ごすことになったのだと思います。

30代前後の頃、二つの大きな出来事があった。1つは初めての海外旅行（タイ）。もう一つは、父親の定年退職だった。海外旅行は、単なる報奨旅行で観光旅行だったが、初めての海外旅行という昂ぶりと共に、子供の頃に見た風景を目の当たりにしたデジャブ体験が強烈な印象となって、心に焼き付いた。（次章に詳細）

父親の定年退職（当時55歳から60歳に引き上げられ始めた頃）が、何で大きな出来事なのかというと、「去年まで、55歳定年で辞めていかれた先輩方に、今年から60歳になりましたから、居残りますでは、人事を担当していた者としても、組合との折衝をしていた者としても潔くない」という理由で、退職願を出したところ、常々尊敬して止まない社長から直接、「慰留するように」との下命が下り、結果的に子会社の人事部に転属になったという経緯を聞いたことです。

夕方5時の定時に退社し、6時に帰宅しても、台風情報を聞いては、夜10時に会社に向かうという愛社精神の塊のような姿は、子供の目にも明らかでした。軍歴が『憲兵隊』だった事から、復員後、就職に困難を極めていた処、採用してくれた人事部長に大恩を持ち続け、中元・歳暮を欠かす事はなかった事も愛社精神に結びついていたのでしょう。
それ故に、子会社移籍後の定年退職を迎え、その後の人生をどう過ごすのか…。

実に、私的な話ですが、これらが全て現在に通じる布石になっているという事でもあります。更に決定的な現在との関係性を持った事態は（父親の『脳梗塞』）でした。

女子であれば、初潮から閉経までが出産可能時期で、それに合わせて体調も体付も変化して来るように、男子でも、気付かないうちに色々な変化が起こっている事を自覚されているでしょうか。抑えきれない性欲もその一つだといえば自然現象とも云えるでしょう。（勿論、痴漢や強姦は犯罪であって、自然現象といえども免罪されるものではないのは当然です）
女子の更年期障害と同じく、男子も60歳前後に、大きな体調の変化が現れるようです。「もはや、これまで！」というような体調不良に見舞われた経験はありませんか？普段はなんでもなく、健康で元気だったのに、ある日突然「もはや、これまで」経験をお持ちの方は、是非お知らせください。（共通認識を持ちたいから）

父親の脳梗塞（70代）もその一つですが、それ以前の60代に体調不良を訴え、「もはや、これまで」と云って驚かされた事があります。現職を退き、健康・体調を気遣いながらも…、ある日、突然体調不良が襲って来る…。実は、体調不良ではなく、体調の変化（自然現象）ではないかと思い当たる節・経験が、皆さんにはありませんか？
0歳から30代・30代から50代・60代から80代後半までの30年スパンで体調の変化を考えた時健康で元気に過ごすには、何をどうしたら良いかという答えが見つかりそうです。

Chiang Mai　ロングステイの意味

人と人との出会いは、偶然の為せる業であって『 縁 』とも云われる。土地や、国との出会いも同様のことが云えるだろう。チェンマイ市内の電線にリスが走り回っている光景は珍しくない。日本の童謡『 ふるさと 』に唄われている♪兎追いし、かの山。小鮒釣りし、かの川♪　も、ふんだんに存在し、瞬時にして、50～60年前の日本の情景が蘇る。

前章記載の『デジャブ体験』は、現在のチェンマイ暮らしに直結しているといっても過言ではない。

『 日本を取り戻す 』前に、取り戻したいものはいくらでもある。健康を損なっては、健康を取り戻したいし、経済的損失を蒙ったならば、それも取り戻したい。若さを取り戻したいという人もいれば、奪われたものを取り戻したい、紛失したものを取り戻したい等々、様々あるだろう。

しかし、現実は『過ぎたるは及ばざるが如し』で、この語句は論語に謳われていて、意味としては、過重・過大は、過少よりはいいようで、実はよくない（中くらいがいい）という解釈が一般的だが、『…を取り戻す』場合に当てはめれば、「過ぎ去ってしまったものは、取り戻す事は困難」と解釈するのが現実的ではないだろうか。困難を飛び越えて、「至難の業」でもある。

今月のお薦め本10月16日発売

時間的解釈ならば、『後悔先に立たず』だろうが、『取り戻すべきもの』に対し後悔しだしたら、切がないほど尾ひれが付いて回る。拉致事件の被害者が未だに救出できないのも、政府が後悔していないからでもある。後悔しないなら、至難の業を使うしかないという事だ。この業を使えない理由を憲法9条に結び付けている。

今の政府は、やらずぼったくりで、国民の生命財産を守らない…。臆面も無く敵国に国土を売り渡し、媚まで売っている。緊縮財政で国民を疲弊させ、増税で追い討ちをかける。やる事なす事、『取り返しのつかない日本づくり』に邁進しているとしか見えない。企業の海外流出の本音部分に、「こんな日本ではやっていけない」が、厳然としてあるから、「戻って来て！」と云われても、「誰が戻るものか！」だ。

外国で「あるべき姿の日本企業」をやっている会社は少なくない。スズキ・トヨタのトップ会談を3章に掲載しましたので、とくとご覧下さい。

失われた20年･30年と云われるけれど、40年前に体験したデジャブによる『懐かしい日本の姿』は、未だに現存し続けています。先日も、ドイサケット温泉で赤とんぼの群れを見かけた。雨季が始まると同時にホタルが飛び交い、最近見かけなくなったものの、Pure/Thai オープン当初分蜂した野生の小型ミツバチが、近くの木の上に巣を作り天然蜂蜜を提供してくれたりもした。

最近、富に日本を取り巻く世界情勢の不安定感が増して来ている。日本政府･政権は、世界を操るディープステートの狡猾な思惑や企み、脅しや恫喝に屈して、事なかれ主義を貫いているようにしか見えない。（事勿れの勿れは、無しの命令形であって、平穏無事に済みさえすれば良いとする消極的な態度や考え方）こんな事で、問題や課題が解決されることはない。

『懐かしい日本の姿』を髣髴させる光景を目の当たりにした時、『いつの日にか戻らん』と決意し、30年後に実現したのがPure/Thai だったという事でもあります。マッサージとステイルームの営業は閉店しても、『 取り戻すべき日本と、あるべき姿の日本 』を重ね合わせつつ、日々・刻々と変化する国際情勢をみながら、異国に居てPure/Thai事業に取り組んで行きます。

誰でもが感じ、悩み、苛まれてきた自己矛盾・社会矛盾、個人的・社会的問題は、矛盾論を説き、問題解決策を提示すれば、悩み苦しみから解放されるとする事は虚構であって、狡猾な人間の浅知恵でしかない。

幾ら説得しても、矛盾は動じない。幾ら提示しても、解決する行動が伴わなければ問題は解消しない。矛盾と対峙したいならば、体力と気力を充実させ、それなりの武器と防具を身につけなければイチコロにされてしまうし、問題解決を図りたければ虎穴に入る腹を決めて飛び込んで行くしかない。

体力も気力も腹さえも衰退してしまった夢やビジョン（構想・展望）を失ってしまったら、（年齢に関係なく）生ける屍として、味気ないその日暮らしで過ごすしかない。
夢やビジョン（構想･展望）を描くのに一銭も掛らない。武器と防具にはカネが掛る。
無ければ創れば良い、創るには七人の侍プロジェクトに参画するしかない…となる。

今月のお薦め本に掲げた『表現者クライテリオン』16日発売は、徹底した安部批判満載です。反日左翼の騒々しいだけで中身の無い「アベガー」「アベ辞めろ」という暴言等とは全く異なる、事実批判に終始していると思われます。是非ご一読下さい。
書籍発売に先立って行われた討論の動画を以下に掲載しましたのでご覧下さい。

https://www.youtube.com/watch?v=2sGeW4TXpMg　討論 ： 安倍総理の器

ビジネスと基本理念の融合

トランプ大統領の事を「朝令暮改」と、揶揄する論調がまかり通っていますが、おしなべて、経営者は朝令暮改でなければ成り立たないものだと思っています。朝令暮改が出来ない、場当たり、なし崩し、その場しのぎでやっている者たちには出来ない芸当でもあります。腹に肝を据えて居ればこそできる、朝令暮改を吟味してみましょう。

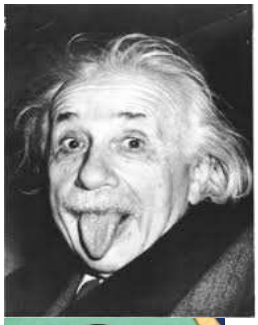
米国の国益優先で、過去の政府が執り続けて来た政策の過ちや、しがらみを断ち切るべく、中華帝国（中国共産党）つぶしに踏み切ったトランプ大統領の言行は朝令暮改の連発が多く見受けられる。貿易赤字の膨らみから、不均衡・不平等を訴え関税強化策で貿易・経済戦争を仕掛けたが、敵もさる者で対抗策を打ち出し、この一点では易々白旗を揚げない。

無国籍企業と称されるGAFAは、典型的なグローバル企業で、米国の国益優先の企業ではない（米国にとっては、内なる敵でもある）から、これらとも戦わざるを得ない。
中国共産党に『為替操作国』認定をして、金融面で叩こうとしても、何千万・数億人の人民の生命財産よりも自分達の面子（プライド）の方が優先という、『コンプレックスの塊集団』である首脳部は、臆面も無く平然と為替操作と、捏造・改ざん・何でもありを繰り返す鉄面皮だ。

側近に、対中強行姿勢を打ち出すブレーンを抱え、是々非々と共に、自らの思惑を実現しようと思っているからこそ、朝令暮改は止む事がない。持ち上げたり、こき下ろしたり、揶揄したり、見下したりで、まともに丸ごと受け止めていたら、翻弄され続けなければならない。（その側近の更迭人事もこの範疇だから、手に負えない）

この術中に嵌まっている各国の最高権力者たちの狼狽振りを見れば一目瞭然だ。大統領の任期は連続2期で、8年の先はない。この任期中に『アメリカンファーストを実現させた歴史に残る偉大な大統領だった』と記されたい、ノーベル平和賞の受賞願望が本心で、これを『肝』にしているからこその言動ではないかと見ている。いくら言質を取った処で暮改されたら言質は瞬時にぶっ飛んでしまう。

だから、『肝心要』の肝の部分だけを注視していれば、見誤ることはないだろう。



私は『歴史に残る偉大な大統領だったと記されたい願望』が本心であり、肝であると想定しているが、想定通りであったならば、残念ながら、願望は未達成に終わってしまうだろう。
『アメリカンファースト！』というキャッチフレーズの下、ナショナリズム・ポピュリズムを全開に貧困層に貧困からの脱却を訴えて来た、富裕層の大統領の言葉が色あせて来ているのは、保守層に向かって、「戦後レジームからの脱却」「日本を取り戻す」というキャッチフレーズを使って、取り返しのつかない日本づくりを推進しているグローバリスト首相と同類だ。

元々私は米国民でもトランプ支持者でもないから、彼が願望を達成しようと、未達成だろうとどうでもいい。アインシュタインに今の世界状況を問えば、右図の答えを出すだろう。

今、偉大な大統領よりも香港の偉大な市民が命がけで立ち上がっている。欧米マスメディアでは連日報道されているのに、日本のマスメディアは、報道記者を多数取材させているにも拘らず、報道しない自由に固執している。中国と日本の政権に忖度しているからだ。私達は、せめて、事実をしっかりと見定め、香港市民の行動を応援し、拡散し、周知をはかることだろう。
https://www.youtube.com/watch?v=llTR9kb_n70　　香港に栄光あれ

口を尖らせて、ディールを振り撒き、朝令暮改を繰り返し、「アメリカンファースト」の陰に潜んでいる『トランプファースト』を隠し続ける事は、もはや困難になって来た。

それでも、選挙上手な有能なスタッフと、対抗政党の人材不足に救われて、再選を果たすかも知れない。政治家としての実績ではなく、実業家として名を馳せて来た事でも知られているから、『異業種交流の中での意見や見解の相違』が軋轢を生んでいるとみれば、一連の内紛や多発する更迭人事など理解しやすい。
「アメリカンファースト」にしろ、「トランプファースト」にしろ、覇権主義・個人主義を貫いて「我が国」・「我が社」・「オレ様」こそがNo1という呪縛から解き放たれる事がない点では、対戦相手の習近平・パシリのシンゾー共々、同じ穴の狢だろう。

これに引き換え、『 日本型経営者の考え方と行動 』は同じNo1でも180度違う。
人に対する考え方、会社や商品に対する考え方、経営哲学と資金に対する考え方、世界の見方など、およそ毛唐かぶれしたグローバリストには及びもつかない。
最近YouTubeにアップされた対談は、今後経営者を目指す者にとっては**必見**の内容なので以下に掲載しました。

https://www.youtube.com/watch?v=pBoz48UjiQk　　鈴木修会長×豊田章男社長 1
https://www.youtube.com/watch?v=1zgL4TAqW-k　　鈴木修会長×豊田章男社長 2
https://www.youtube.com/watch?v=VWXBb-G7Tp0　　鈴木修会長×豊田章男社長 3

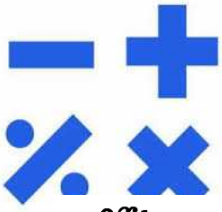
秘密・機密/Top Secret/Confidential を語ろう

個人にも、会社や役所にも、組織・団体・政党や国家にも『秘密・機密事項』は存在する。秘密・機密を共有する者以外の誰にも知られたくない『情報』が『秘密・機密事項』であって、厳重に秘守され漏洩されるべきものではない。内部通報などによって、機密費が暴露され、贈収賄スキャンダルが後を断たない。政府の機密費は課税されて…

いない。特に内閣官房機密費（報償費/政策推進費）は18年度12億円のうち90%は領収書不要で、何と6年間の政権期間で67億円が遣い放題だったというニュースをご存知だろうか？国民や民間からは税金を絞り上げて、政府（菅義偉 官房長官の裁量）で遣いたい放題にして良いのだろうか？財務省は「そういう決まりになっているから…」一言も文句を言わない。人事権という生殺与奪の権力を握っている官房長官に逆らえる役人も政治家も一人もいない。

又々、政治批判か？どうにもならないだろうに！で、良いんですか？
どうにもならなくても、良くないものは宜しくない。と云う、まともな思考回路を維持・継続しつつ次のステップ、進歩・発展に繋げたいというのがKanang（くつろぎのいおり）Pure/Thaiの思考行動パターンだと云いたいのです。日本人なら誰でもが持っている（筈の）まともな思考回路『常識を超えた良識』こそが、『日本を取り戻し、あるべき姿の日本人像』を復活させるのではないかと思いますが、敗戦史観・グローバリズムという常識（和差算＋・－）に囚われて、良識という（積商算X・÷）に行き着かない。更にいえば、微分・積分・順列・組合わせ、確立・幾何に至っては、手も足も出ないと云う『愚劣な知識人』に闊歩されているというのが今の姿です。

「できない事を云うな！」



$$\int_{x_a}^{x_b} f(x)dx$$

積商算もできない（良識を持たない）愚劣な知識人に騙されないためには、これを超えた微分・積分を復習する必要がある。（以下の動画で思い出しましょう）
https://www.youtube.com/watch?v=4p1rwfXbCoY　　中学数学／微分・積分

この歳になって何で？何で今更！じゃありません。長岡藩の藩風・藩訓としてある『常在戦場』を藩士に思い起こさせたという小林寅次郎の話は、映画『米百俵』で本誌にも掲載しましたが、再度掲載しますのでご覧下さい。
https://www.youtube.com/watch?v=kn7I1ViPLVE　　米百俵

和差算・積商算・微分・積分・米百俵との関連付けが分かれば、あるべき姿の日本が見えてくるように思います。（それだけ簡単ではないとも云えます）

消費税5%を8%の増税する決断をした後「騙された」だの「間違いだった」などと嘯きながら、今回はイケシャーシャーと10%を実施してしまった現政府・政権に期待できるものは何も無い。国民はこぞって、自助・共助に励まざるを得ない。宜しくない者を白日の下に晒し、引きずり落とさなければ気がすまなくなるのは自然だし当然だろう。逼迫・緊迫状況が日増しに高まっている近隣国内をはじめ、世界各国でこの動きが激しくなって来ているのも周知の通りだ。

私は次の事業の構想を練りながら、相変わらずウェルネスプログラムを実践し続けている。
くつろぎ　精神的・心のリラクゼーション　　**癒し**　身体回復のためのリラクゼーション

かぶり湯

心身のリラクゼーション行動と、四六時中考える事によって、ワクワクするような夢や・ビジョンのある事業が、次々と発想される。10年間の準備期間をおいて11年余り運営し終了した、
*Kanang Project Planning (Pure/Thai設立・運営 プロジェクト)*がこれだ。
*New Kanang Project Planning (通称：七人の侍プロジェクト)*が 次だ。

これも10年かけてやるつもりだから、バタバタと慌てない。それで終わりかというと、まだまだ先があって、
第三ステージ：　くつろぎのいおり／デベロップメント　　10年～
第四ステージ：　くつろぎのいおり四季by日本／デベロップメント　10年～
第五ステージ：　次世代後継者による事業企画プロジェクト　　10年～
私の命の方が先に尽きてしまう。（それでも良いじゃないか）

企業経営（資源）の三要素は、人・物・金と云われますが、これらは資源であって、これらをどう活用しようかというビジョン（構想・展望）がなければ宝（財）の持ち腐れになってしまいます。何事かを始めるに当って、「どうしたい」「こうしたい」という夢や希望・願望などが前提になければ何も始まりません。

実は、このビジョン（構想・展望）こそが資質そのもので、『何のために…』が明確でなければ動力になりません。資源・資質・動力のサイクルが回り始めて起業ができる訳です。上記の算数・数学・米百俵との関連付けの解がこれです。

最後に、以前にも紹介した、国史研究家の**ねずさん**の動画をご覧下さい。
https://www.youtube.com/watch?v=cGBGZu2qTkU　　日本人のメンタリティのルーツ